

# 湖都通信

看護学科版

03

Coto Tsushin  
[Nursing subject Version]

2017. 3. 1

滋賀医科大学同窓会「湖医会」



## CONTENTS

会員からのたより	村上聡子・平岡葉子・片上貴久美・濱崎貴則・森（熊上）敬子	2
支部会 滋賀支部	白石知子	5
同期会 卒後10年（9期生）	小山友美	6
6期生	山地亜希	7
看護学科交流懇談会	奥野綾乃・福地まどか・近藤いずみ	8
懐かしたより（2）	白石知子・西尾ゆかり・山下・敬・山地亜希	10
西医体・西医療体	女子バスケットボール部・合気道部・女子バレーボール部・水泳部	12
事務局から	総会議事録・ほか	16
編集後記	西尾ゆかり・山地亜希	16



村上 聡子 (看1期生)

こんにちは。1期生の村上聡子です。早いもので、卒業してから 18年近くが経ちました。卒後助産師学校に進学し、現在助産師として働いています。卒業してから千葉に帰ったので、滋賀県の話が出ることもなく、たまに里帰りの方から滋賀の話を知ると滋賀で過ごした時のことを懐かしく思い出します。

助産師学校を卒業してから総合病院に3年、助産院に1年半勤めました。地域での仕事に興味が出てきたため、新生児訪問や、乳児健診をしたり、性教育に関わったり、地域の助産師会に参加したり、乳房マッサージをしたりしていました。その後結婚し、第1子出産した時に専業主婦になりました。3人子供を産み、第3子が1歳の時に近所の診療所に勤め始め今に至ります。今の職場は子供がいる人が多いので、子供が病気になったときなどお互い様精神で休みが取れるので助かっています。

現在勤めているところは年間1300~1400件のお産があるところなんです。診療所なので、基本は大きな合併症の無い方がお産されますが、お産は何かおこるかわからないので、緊急帝王切開や、高次医療施設への搬送、輸血などが必要になることもあります。診療所はできることが限られているので、早め早めの判断が必要になります。小さな兆候も見逃さないように日々気を付けながら仕事をしています。また、お産はあくまでもゴールではなく育児のスタートなので、いいスタートが切れるようなお手伝いができるように務めています。

今、お母さんになる方々は、赤ちゃんに一度も触れたことのないままに育児をスタートすることが多くなっているように感じます。また、育児は本能でできるものではなく、学習して習得するものなので、

# 子育てしながら働いています



赤ちゃんに触れることなく学習する機会がなかった方たちにとっては、初めて首のすわっていない赤ちゃんを抱っこするだけでも大変なのに、育てなければならないというプレッシャーは相当なものと思われています。その方たちが家に帰ってから育児が少しでもスムーズに出来るようにサポートしています。

私が子供を産んで、仕事から離れている間、いつか仕事に戻りたいと思っていました。子育てをしながら仕事への空白に対し不安が大きくなりました。先輩助産師の方には、すべてが経験・力になるから焦らず子

育てをしたらいいと言われていました。働き始めて先輩たちの言っていたことがよくわかります。約5年半現場から離れていましたが、育児の経験は仕事でとても役に立っています。今、子育てに専念していていつか働こうと思っている方は何事も力になるので、空白を恐れずまた働いてほしいなあと思います。



20年前、大阪での実家生活から滋賀医大へ入学して憧れの一人暮らしをしました。同じ関西なのに、冬の寒さはびっくりでした。看護の勉強とバレーボール部、バイトに明け暮れた大学時代から早16年。卒業して5年間、大学病院の手術室看護師として働いた後、大学の恩師から看護大学の助教をしてみてもと声をかけていただき、3年間助教勤務を経て、現在は当院消化器外科・乳腺一般外科・歯科口腔外科病棟勤務から看護臨床教育センターへ異動し、主に新人看護師教育に携わっています。

手術室看護師～助教～病棟看護師～新人教育というろんな経験をしてきましたが、大きな挫折をしてこなかった私にとって、毎日弱音ばかり。しっかりしていそうに見えますが、泣きながら毎週実家へ帰っていました。特に滋賀医大病院で、また30代で病棟看護師として働く時は、患者さんへ提供する看護技術を学生時代に戻って一から勉強しなおす日々でした。

そんな中、私がとても恵まれていたことは、どの職場でもおもしろくて熱い同期や後輩、同僚、先輩に助けてもらったことです。乗り越えてきた経験が、現在

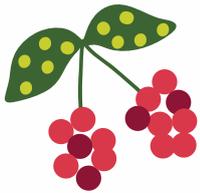
の実務に活かされているなあと日々感じています。

現在、新人看護職員研修を1年間かけて行う中で、「記憶に残りやすい教え方」「私が大切にしている看護」「どんな声をかけてくれた時、すんなり理解できたか」、看護学科の学生に演習や実習で関わる機会には、「現場で行っている看護の実際」や「患者さんへ関わる時に考えてもらいたいこと」等の話を多く盛り込んでいます。

仕事の合間には程よく息抜きをし、学生時代の同級生と温泉旅行や海外旅行、コンサート、両親と旅行へもたくさん行って、異文化交流をしています。

最後になりましたが、これから先も研鑽は続いていくと思いますが、自分のペースを大事にし、体と心の声に耳を傾けながら、一步一步邁進していきたいと思っています。

## 滋賀県へ8年ぶりに 戻ってきました



滋賀医科大学医学部附属病院 看護臨床教育センター

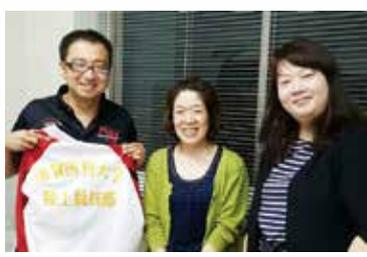
平岡 葉子 (看4期生)

# 四国愛媛から、 滋賀医大をおもろう

片上 貴久美(看2期生)  
濱崎 貴則(看6期生)  
森(熊上)敬子(看9期生)



道後温泉で有名な愛媛の大学病院で、滋賀医科大学卒業生を発見する度にうれしくて、親友である西尾ゆかりさんに話したことからこの原稿を書くに至っています。愛媛には他にも卒業生が居ることと思いますが、今回は3人で集まって話をした内容を書くことにします。3人の共通点は、滋賀医大を卒業後、愛媛の大学病院で看護師として働き始めたことです。森さんは2016年7月から愛媛県立医療技術大学の教員となり、私も2015年9月から愛媛大学の教員となり、現在3人の職場は異なりますが、大学病院で働いている時に、副看護師長や教育専従といった立場で、新人教育など一緒に活動する機会がありました。



み会があったと聞いて驚きました。当時Yさんを中心に看護学科男子が学年問わず全員参加していたという飲み会ってすごいですよね。今もあるのでしょうか。遅れて森さんが合流し、森さんは南草津と瀬田の間位に住んでいたと判明しました。今では南草津やヤンマー坂近辺などはすっかり開発されてしまっていること、瀬田駅前のカラオケミュージアムや周辺の居酒屋など、年代が違ってても共通な話は多かったです。なぜ滋賀に行ったのか、なぜ愛媛に戻ったのかという話もしましたが、理由が様々過ぎて今回のスペースに書ききれません(笑)。愛媛で同じように滋賀を語れる仲間と喜び愉しんでいると、2時間以上経っており慌てました。

2016年9月、それぞれの仕事を終えて集まりました。先に濱崎さんと2人で話し始めました。私たちには共通の友人がおり、近況から、大学生の時どこに住んでいたのか、バイトは何をしていたのかなど話しました。濱崎くんは原付通学、私は電車・バス通学でしたが、近江大橋のあちらとこちらに住んでいたことが分かり盛り上がりました。また、看護男子会という飲

もうすぐ卒後20年の同窓会で(こわいけど)楽しみなんだと私が話すと、濱崎くんの学年は毎年集まっているのだとか。うらやましい。今後、どうなりたいかという話で、新婚の森さんは、基礎看護学の教員になって社会に出る前の何でも吸収できる学生との関わりを大切にしていきたいと。濱崎くんは、目指せ看護部長らしい。私は人生彷徨い中ですが、看護の楽しさをちゃんと伝えられる人になりたいですね。

学生時代のアルバムから



## 滋賀支部会

# 第2回滋賀支部会に参加して



滋賀医科大学医学部附属病院  
看護臨床教育センター  
白石 知子 (看1期生)



塩田学長、渡辺会長と



8月21日、ホテルポストプラザ草津で行われた第2回滋賀支部会に参加してきました。

今年4月から滋賀医大の卒業生としては初である、滋賀医科大学の副学長に就任されました山田尚登先生のお祝いから始まりました。その後、大学から塩田学長、県からは健康医療福祉部角野先生(卒業生)をお招きして、意見交換を中心に、現状や困っていること等「本音でトーク」がありました。大学としての方針やこれからの地域医療についてお話を伺うことができました。参加者の質問で、医師の人材育成と確保の話があがりましたが、看護師も同じような問題があるなど思いながら、また違う切り口で医療について考えることができる貴重な時間を過ごすことができました。

その後の懇談会では、料理をバイキング形式でいただきました。おいしい料理を頂きながら、参加者一人ずつ自己紹介しましたが、笑いを誘うようなユーモアでスマートな自己紹介をしてくださる先生もいらっしゃり、みんな滋賀医大の卒業生であるという共通点を持っていることで、とても和やかな雰囲気でも過ごすことができました。

支部会は、湖医会会員や学生会員であれば誰でも参加できるのですが、第1回滋賀支部会では、看護学科の参加は唯一看護学科副会長の山下敬くんだけでした。しかし、今年は湖医会幹事の相見良成先生が看護学科基礎看護学講座の教授に就任されたため、看護学科としても看護の湖医会としてもパワーアップしております。また、来年も参加したいと思っておりますので、看護学科湖医会の方もどうぞ参加くださいお待ちしております。

# 卒後10周年の同期会に参加して



小山 友美 (看9期生)

この度は、卒後10周年に際しまして、同期会という場をご準備いただきありがとうございました。

久しぶりに皆様にお目にかかり、大学生のころに戻った気持ちで楽しいひとときを過ごさせていただきました。これはひとえに、幹事の長嶋さん(宇佐美さん)、平岡さん(西村さん)の行き届いたご配慮のお陰であり、今回のような心あたたまる同窓会の成功があったのだと思います。ここで改めてお礼申し上げます。

同期会は、15名と少人数ではありましたが、近況を一人ひとり伝え合い、最後には結婚の報告も飛び出し、久しぶりに顔を合わせる級友との楽しい時間

は、本当にあつという間でした。会場に向かう道中は、他の方の名前がすぐに分かるだろうかなど不安もありましたが、遠方は東京から愛媛まで、新幹線や飛行機などを使い駆けつけてくれた方もあり、皆さんの顔を見るなりそんな不安もすぐに吹き飛びました。近年facebookやLINEなどのSNSの普及により、近況は感じられていることもあり、仕事や子育て、結婚、恋愛、昔話などたくさんお話し、たくさん笑い、活力をいただくことができました。

閉会後も名残惜しく感じる一方で、もう既に次回開催にも期待している次第です。今回お会いできなかった同期の皆様にも5年後に、お会いしたいと思っております。結びに、滋賀医科大学および湖医会の更なるご発展と、看護学科9期生の今後益々のご活躍を心から祈念申し上げます。



# 卒後14年間、 毎年つづく同窓会♪

山地  
亜希  
(看護6期生)

平成28年10月29日、毎年恒例看護学科6期生同窓会が京都にて開催されました。早いもので卒後14年が経ちますが、年に1回の恒例行事として定着し、現在まで続けてきました。第1回目の開催は、平成15年。まだまだ仕事に慣れない看護師1年生の時に、苦楽をともにした大学の仲間たちと久しぶりに再会して、色々な話をし、パワーを充電して帰ったのが懐かしく思い出されます。それから毎年、仕事のことや育児のことなど、それぞれが日々奮闘していることを報告し合う貴重な時間になっています。いつものメンバーから、お久しぶりの人まで、今年は誰と再会できるのかなあと毎年、私もとても楽しみにしています。

集まったときに、次回の幹事を決めておく!というのが、6期生方式で、毎年欠かさず開催できる秘訣です。このおかげで途切れることなく、毎年楽しい時間を持っています。今年度は例年に比べて参加者が少なくアットホームな会になりましたので、来年度はたくさん集まると良いなと思っています。



## 【恩師の異動】

### 藤原 千恵子

勤務先：武庫川女子大学 看護学部小児看護学 教授  
TEL: 0798-39-9002  
mail: fujiwara@mukogawa-u.ac.jp

### 坂口 桃子

勤務先：常葉大学 健康科学部看護学科 教授  
TEL: 054-297-3200  
mail: m-sakaguchi@sz.tokoha-u.ac.jp

看護学科



# 交流懇談会

第16回



# 看護学科



奥野 綾乃  
(看17期生)

この度、交流懇談会に参加させていただきありがとうございました。在校生との交流はもちろん、先輩方や同期とも交流することができとても良い機会となりました。

私は現在滋賀県内の小学校で養護教諭として働いておりますが、この進路に進むまで何度も悩みました。この交流懇談会にも学生時代に2度参加させていただき、現在の職に進むヒントをいただきました。今回の交流懇談会でも学生の頃の私と同じように悩んでいる学生さんがおられました。この会だけで悩みが解決することはないと思いますが、卒業生の話が何か少しでも将来のヒントになっていればと思います。また、学生さんたちと話したことで、自分の学生時代や仕事を再度振り返ることができ、私自身も良い刺激となりました。そして、恥ずかしくない先輩でいようと気も引き締まりました。

この交流懇談会は私にとっても本当に貴重な機会となりました。このような会を開催してくださった関係者の方々に御礼申し上げます。

交流懇談会に参加させていただきありがとうございました。

今回、卒業生として初めて交流会に参加させていただきました。参加する前は在校生に伝えられることがあるのか心配でしたが、在校生からの質問をいただいたときに、質問に答えられている自分がいて、2年間働いて成長したんだと感じ、とても嬉しかったです。

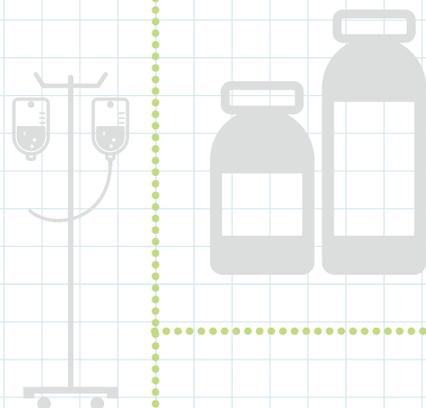
この交流会では助産師、保健師、養護教諭になった同期の話も聞けました。学生時代とは違うみんなの姿に、自分ももっと頑張らないと、と改めて気を引き締める事ができました。

また、先輩方からの貴重なお話も聞くことができ、今後の自分を考える機会となりました。

在校生の皆さんは、勉強のことや、実習のこと、就職のことなど、不安なことがあると思いますが、先生や先輩、友人に助けをもらいながら一つずつ乗り越えていてもらいたいです。

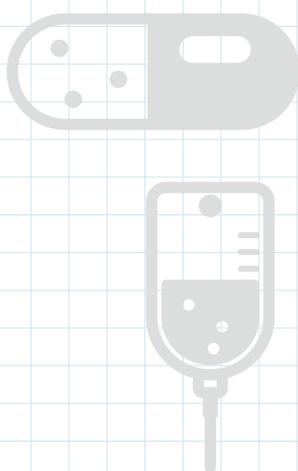
卒業生として参加させていただきましたが、たくさんのことを得られた貴重な一日となりました。本当にありがとうございました。

# 交流懇談会に参加して



福地 まどか  
(看17期生)





## 近藤 いずみ(看護学科4回生)

交流懇談会を通して卒業生の先輩方から看護職の様々な活躍の実際についてお話を聞くことが出来たことは、参加させていただきました在校生にとって非常に有意義なものとなりました。

今回は看護師・保健師・助産師・養護教諭、また看護教員をされている先輩方にお越しいただきました。それぞれの方の現在のお仕事についての具体的な内容、またお仕事に対しての思いや気づかれた点などについても知り心を打たれたと共に、「看護職として働く」ということのより明確なイメージを持つことが出来るようになったと思います。また、学生時代の過ごし方のヒントなどもお話していただき、自分自身の残りの学生生活をどのように過ごすか、卒業後のことを今一度真剣に考えるととても良

い機会となりました。現在はインターネットや雑誌などで看護関係の就職活動情報は以前と比較すると情報入手しやすい時代であるとは思いますが、今回のように実際に先輩方からお言葉を直接いただき、その場で先輩方に質問や相談が出来ることで疑問や悩みが解決するといった機会は滅多にありません。また、これからもこのような貴重な場を持ち続けていくことが出来ればと考えております。

最後になりましたが、お忙しい中私たちのためにお時間を作ってお越しくくださった先輩方をはじめ、交流懇談会を開催するに当たりご協力してくださった先生方や「湖医会」の皆様にご心より感謝しております。本当にありがとうございました。

好評につき、前号に引き続きまして、編集メンバーでお届けします。

今回は、瀬田駅から大学までの途中……学園通りから京滋バイパスを越え、龍谷大学前の坂、通称【ヤンマー坂】にさしかかる直前にある、癒しのカフェテラス『ローゼン』へ行って参りました。

ある土曜日。ランチタイムなのに「準備中」の看板がかかっている…。とにかく入ってみようということで、駐車場へ。車を切り返しているとドアの向こうからおばちゃんの顔がひょっこり。おばちゃんの優しい笑顔と「いらっしゃい」に迎えてもらいました。お店の中に入ると、おっちゃんも迎えてくれました。

不審者ではありません。炎天下だったんです…。



**西尾:**おっちゃんが不意に流してくれたBGMはドラマ『ロンバケ(10期生くらいまではわかる……?)』の“瀬名のピアノ”。学生当時、よく観ていたドラマだっただけに、懐かしさで涙が出そうになったよ。特に、思い出はないけどね。

**白石:** 山下君はじめ、当時の学生の名前が飛び交ってた。学生の事めっちゃ覚えていてくれたよね～

**山下:** 全然変わってなかったですね。学生のことよく覚えてくれてました。



**西尾**：唐揚げ定食、昔と変わらず美味しかったー！お味噌汁にもほっこりしたねー。

**白石**：おっちゃんとおばちゃんと2人だけで作ってくれていたよね。味は変わってなかった。

**山地**：ほんと、味が変わってなくて、ほっこりした～♪懐かしのメニュー表も健在！

**山下**：おかわり・コーヒーはやっぱセルフサービス（笑）。

懐かしい話に花を咲かせながら、最近「準備中」の看板が自分たちでは降ろせなくなったこと、滋賀医大の学内のお店の充実や通学事情の変化によって、昔ほど医大生たちが来なくなったことなどの話を聴き、時の流れを感じました。

**白石**：クラブが終わったらローゼンとか外に食べに行っていたけど、今は医大の敷地内にコンビニとか入ったことが原因で、

“学生が降りてこない”って言うていたよね。いろいろと便利になった分、地域とのかかわりが少なくなってきた

ている今の世の中を感じたよ……。



**山下**：今の学生にも、ぜひ行ってみたい。あんなに気楽に長居できる店は、なかなかない……。

**西尾**：ほんまやね。美味しい食事に居心地のいい空間、ぜひ若い学生さんたちにも行ってほしいね。おっちゃんとおばちゃん、もっと元気になるね。写真撮影で数枚目に「もうええで」と言いつつ何気にポーズをとるおばちゃんのかわいさも相変わらずでしたねー。私たちが駐車場を出て道に入るまでずーっと見送ってくれたおばちゃん。やっぱり学生時代みんなの母ですね。おっちゃんといつまでも仲良く元気でいてくださいな。美味しいごはんをありがとうございました。ごちそうさまでした。

**白石**：本当に家から送り出す母のようでした。

**山地**：また帰ってきますーす！



みなさんの懐かしい思い出の場所はどこですか？お世話になった人はどなたですか？今、どうなっているでしょうか。久しぶりに会いに行ってみませんか？

みなさまからのお便りをお待ちしています！

白石、西尾、山下、山地



## 女子バスケットボール部 強豪校に善戦、2回戦敗退

前主将 澤村 みずき(医学科4回生)

夏の大会の結果を報告させていただきます。まず西医体です。初戦は勝利しましたが、その後2連覇中であったシード校に前半は競ったものの後半に強豪校の力の差を見せられ悔しくも2回戦敗退となりました。しかし、チーム全員が全力で攻め守り応援し楽しい試合でしたので悔いなく終われ良かったです。そして看護学科も参加できる西コメはリーグ初戦、相手にかなりのリードを許す苦しい展開でしたが最終クォーターから必死の粘りを見せ、ラスト1秒で同点に追いつきそのまま延長戦を制し勝利することが出来ました。この勝利した瞬間の感動は忘れられません。しかし2試合目で最後まで差を縮め切れず3点差で負けてしまいリーグ2位となりました。

順位決定リーグでは全員出場し危なげなく全勝しベスト4という結果に終わりました。チームで賞状をいただけなかった事は残念で

すが、2つの大会という長く暑い夏を通して部員一同の絆をより一層深められとても良い経験となりました。これから新チームとなりますが、チーム一丸となって頑張っていくと思っています。今後とも応援よろしくをお願いします。



## 合気道部 演武に幅が



主将 奥田 祥伍(医学科4回生)



第68回西医体、第19回西医療体の合気道部門は8月14日、15日に開催されました。高知大学様が主幹として高知県立武道館にて行われました。

我々、滋賀医科大学からは西医体に医学科一回生から六回生まで総勢17名、医療体には看護学科一回生から四回生の4名が参加させていただきました。特に今年は我々部員の段の保持者がここ数年のうちでは最も多い年ということもあり、披露する演武にも幅が生まれたように感じます。演武大会の結果につきましては、非常に残念ではありますが滋賀医科大学からは賞を戴く者はおりませんでした。各々精一杯の演武を行い、素晴らしい大会であったと考えております。非常に暑い中の大会ではありましたが、大会の期間を通して、誰一人大きなけがをすることもなく無事に帰ってくることも出来ました。

西医体、西医療体では他の大学の演武を目にし、非常に良い刺激を各部員が感じたと思います。この大会を機に、幹部も交代いたします。いつも多大な御支援を賜っておりますOB・OGの方々への感謝を忘れず、また来年の大会に向けて、精一杯稽古に励んでいきたいと思っております。

## 女子バレーボール部 少数部員での出場

山川 智理(医学科4回生)

OGの皆様、いつも応援ありがとうございます。

今年の西医体は、初戦で川崎医科大学に敗れてしまいました。先輩方に良い報告ができずに、悔しく思っております。

女子バレーボール部では近年人数が少ない状態が続いており、特に看護学科の部員が試合に出られない西医体では、出場すらできないかもしれないというのが毎年のことになっていました。しかし幸運なことに、引退後に復帰してくださる先輩や助っ人にきてくれる友人のおかげで、毎年西医体に参加し続けることができました。

今年は医学科の部員6人のうち、3人が引退する年でした。残りの医学科の2人は4月に入部したばかりの部員でしたが、よく練習して、試合でもたくさん活躍してくれました。西医体では看護の部員や、引退したチームメイト、監督(部員のお父さん)にもたくさん助けていただきました。仲良くしていた他チームの皆も試合をみて応援してくれました。本当に恵まれた環境でバレーをさせていただいています。

西医体が終わり、医学科の部員は3人になりました。来年、西医体に参加できる可能性はこれまでになく低いかもしれませんが、希望をもってこれからも部員皆で頑張っていくと思っています。



## 水泳部 総合で入賞できず

前主将 吉田 耕輔(医学科4回生)

西医体の結果をご報告いたします。

今年度の西医体は高知県のくろしおアリーナで開催されました。会場は檜で作られており、プールの諸所で檜がかおる思い出深い大会となりました。結果ですが、今年度は男子総合13位女子総合19位と男女ともに総合で入賞することはかなわず、非常に残念な結果となりました。非常にレベルが高い競技の中、個人種目ではありましたが多くの部員が決勝種目に出場し、滋賀医科大学の名を全国に馳せてくれたことは主将として非常に誇らしく思います。私たち水泳部は部員一同、この大会を目標に日々練習に励んでまいりました。昨年度は男子総合3位女子総合3位という近年まれにみる好成績を先輩方が残してくださったこともあり、今年度の結果は主将として悔い改め次年度に活かさねばならぬ必要があると強く感じています。

私自身、今回の西医体は男子100mFlyで5位入賞、100mFrで4位表彰という結果となり入学以来、初めてメダルを持たず手ぶらで滋賀への帰途につきました。結果こそふるいませんでしたが、私の泳いだレー

ス一本一本を通じて、応援していただいたすべての皆様に、一時の興奮や私の水泳への熱い思い、部員への愛着などなにかしら伝えることができたと感じてやみません。この1年間主将としてチームを統べることができ非常に幸いに思います。来年度の西医体では最高の結果をご報告できますよう部員一同また1年間、練習に励む所存です。今後とも滋賀医科大学水泳部をよろしくお願いたします。

西コメ 8/18(香川県立総合水泳プール)

- 女子200m個人メドレー……第2位/(看3)小原悠花/2'39"72
- 女子100mバタフライ……第4位/(看1)安居亜起/1'13"60
- 女子100m背泳ぎ……第2位/(看3)小原悠花/1'15"92  
第5位/(看1)西澤 光/1'18"84

## ◆ 大学キャンパス中庭にベンチ寄贈 ◆



大学の中庭には、医学科15期生、17期生の卒業記念品を含む20数台の屋外ベンチが設置してあります。そのほとんどの老朽化が著しく、このたびこれらを更新されることに伴い同窓会「湖医会」からその一部を寄贈することになり、過日、渡辺一良会長から塩田浩平学長に贈呈しました。  
(2016年10月)



## 2016年度「湖医会」総会 議事録 日時／平成28年10月29日(土) 16:15~17:30 場所／基礎実習棟B講義室

### 議題

#### 1. '15事業報告及び'15決算について

◇原案(資料1-1、1-2)どおり承認された。

#### 2. '16事業計画及び'16予算について

◇'16事業計画については原案(資料2-1)に、幹事会において修正することとなった次の各事項を追加し、承認された。

##### ○広報の充実

HP(ホームページ)のリニューアル、広報誌の内容充実等広報関係の充実を図ることとなり、その方法等について検討することとなった。

##### ○表彰規程の制定

各界で叙勲を受ける等会員の活躍に対し表彰をすることとなり、規程案について検討することとなった。

##### ○会費の徴収

卒業会員及び大学院会員の年会費のうち、一部[医学科30,000円、医学科(編入)25,000円、看護学科20,000円(終身)、他大卒大学院(博士)20,000円、同(修士)20,000円(終身)]を入学時に徴収すること及び特別会員のうち滋賀医科大学の現職員についても年会費を徴収することが承認され、関係規程の改正を行うこととなった。

◇'16予算については原案(資料2-2)に、幹事会の議のとおり次の事項を一部修正し、承認された。

○「広報充実費」500,000円を新規計上、「記念事業積立費」に500,000円を上乗せし3,500,000円とする。

#### 3. 会則の一部改正について

第19条を次のとおり改正することが承認された。

「名誉会員、特別会員及び学生会員は、年会費の納入を要しない。」を「名誉会員、特別会員(滋賀医科大学に在職する者を除く)は、年会費の納入を要しない。」に改正する。

#### 4. 「湖医会記念会館(仮称)」の設立(案)について

大学創立50周年協賛事業候補計画のひとつとして、「湖医会記念会館(仮称)」の設立(素案)の説明があった。

建物の必要性及び可否、建物に代わる事業の創設等意見交換の結果、湖医会の活性化と併せ今後の対応について検討することとなった。

#### 5. その他

○支部の支援について

承認支部の活動状況を把握するとともに、新規支部の設立を支援することとなった。

※各資料は「湖医会」HPを参照

### 会費納入のお願い

看護学科は終身会費制(2014年から)

#### 終身会費 20,000円!

これまでに20,000円以上を納入されている方は、終身会員となっています。20,000円に満たない方はその差額を納入された時点で終身会員となります。終身会員でないと、広報誌や卒後5年・10年・20年の同期会の案内などをお届けできないことになります。詳しくは、湖医会事務局までお問い合わせください。

名前・住所・勤務先・メールアドレス等が変更になった場合は、メールまたはファクスで事務局までご連絡ください。



### 編集後記

今回で看護学科版湖都通信3号を発刊することができました。お忙しいなか、記事の執筆をしてくださりました恩師・卒業生・在校生の皆様様に心より感謝申し上げます。また、今回はたくさんの広告掲載をいただきましたこと、感謝しております。

さて、前号に引き続き、編集委員メンバーの学生時代の思い出の地を巡りました。いかがだったでしょうか。懐かしい場所を訪れ、お世話になった人たちに会って学生時代や新人時代の原点に戻り、自分を見つめ直してみるのもいいのかもしれない。

今後ともみなさまのご協力をよろしくお願いいたします。また、ご意見・ご要望についてもお寄せくださいますようお願いいたします。

西尾ゆかり・山地亜希